

令和6年度 放課後児童対策パッケージ指導者研修会

【紀南会場】

日時：令和6年7月7日（日）13：00～16：00 参加者：26名

場所：上富田文化会館 小ホール

【紀北会場】

日時：令和6年7月8日（月）13：00～16：00 参加者：34名

場所：和歌山市北コミュニティセンター 多目的ホール

1 行政説明

- ①和歌山県教育庁生涯学習局生涯学習課地域教育班 主事 樋尻 敦子
 - ・放課後児童対策パッケージについて
 - ・放課後等こども教室推進事業、こどもの居場所づくり事業の実施状況について

- ②和歌山県共生社会推進部こども家庭局こども未来課 保育班 主事 竹中 奈月
 - ・放課後児童クラブに関する主な事業
 - ・放課後児童対策パッケージ
 - ・放課後児童クラブにおける“安全管理の徹底”について
 - ・放課後児童クラブにおける“安全計画の策定”について
 - ・放課後児童クラブにおける“事故報告”について

2 講演

「こども（人）の心を聴く～こどもの人権を守る～」

和歌山カウンセリングルーム 代表 田中 純子 氏



○こどもの心の発達

- ・物理的環境よりも心理的環境が影響を及ぼす
関わった側が「どう関わったか」ではなく
関わってもらった側が「しっかり関わって
もらった」と感じるかどうか

○普段の生活の現場で、

- ・こどもがどのように行動するか、
その時の感情の発達をしっかり観察することが大切

○働きかけ

①相手の（心）気持ちをきく

受容と共感

促進的理解

聞く→事柄

訊く→尋問、質問

聴く→心の中、思い

②はなす（語る）ことを促す

→思いを「離す」「放す」

③「言っていること」のみではなく

「言いたいこと」「わかって欲しいこと」を

聞き取る

④「訊く」こと、訪ねることを大切にする

「だろう」「はずだ」「に違いない」憶測を生む

「確かめる」ことで憶測から自由になる

⑤関わっていく大人の行動を変えていく 壁の役割

⑥ I（アイ）メッセージを促す

「私は〇〇です」「あなたは？」

⑦信頼が抑止力に

信頼されているという感情

⑧栄養を与える援助

愛は心の栄養

⑨安全なのだという保障の大切さ

*否定的な子ども達にとって特別な
理解が必要

⑩無条件の愛

要求するのではなく招く関わり



3 情報交換

参加者が3人から4人に分かれて、①自己紹介、②こどもとの接し方で困っていること、③対応案を話し合いました。また、講演で印象に残っていることや日頃の活動などについて話し、地域・事業の垣根を越えて交流いただきました。



4 アンケート（抜粋）

①講演会について

- ・気になる子どもに対しての声かけ（働きかけ）参考になりました。子どもの心の声を聴けるようになりたいと思います。
- ・子どもに対するよりそいを学べた。
- ・子どもに対する関わり方やメッセージの促し方を学ぶことができました。子どもの言葉をただ聞くだけでなく、その言葉の裏にある思いや感じ方などを聴くことが大切だと思いました。
- ・子どもの思いを聴くことの大切さについて、改めて気付かされる講演でした。
- ・子供の時に感じる安心、安全、信頼感はとても重要だと言うことがすごくわかりやすかったです。後づけされた価値観は大人が子供にうえつける物というのが心にささりました。聞く、訊く、聴くの違いも勉強になり、聴くをつかっていくよう心かけたいです。
- ・自分自身のことについても振り返りをすることができた。田中先生の講演を聴かせていただき、明日からの保育にもやりがいを見つける事ができました。
- ・子どもとの関わり方について、様々なバックグラウンドを考えながら、関わっていくことが大切なのだと改めてわかりました。子どもの考えや気持ちを汲み取るにも、人それぞれの感性があるとは思いますが、小さなところでも子どもからの気持ち、思い、考えの発信はされているはずだということを忘れず、一人一人の子どもをできるだけ見ることができるよう尽力していきたいと思いました。どうしても手が足りないと思ってしまうことがあるため、できるだけ向き合えるようにしていきたいと思います。
- ・友達関係がぎくしゃくしている、学校で楽しくない、意地悪してくる子供を責めるのではなく、奥にある心の悩みを受け止めること、共感すること、をあらためて考えさせられました。
- ・一口に子どもと言っても持っているバックグラウンドや考え方は一人一人違うし、十人十色が当たり前なのだと改めて気付かされました。今回の講演の内容を持ち帰って、指導員の先生方にも共有していきたいと思います。
- ・具体的な実践例を交えた講演会で大変分かりやすかったです。自分のタイプもよくわかりました。子どもへの対応はなかなか難しいですが、参考にしながらがんばりたいと思います。
- ・こどもとの関わり方の大切さ、聴くことを意識していきたい。
- ・子供の話しを子供の使った言葉を使ってそのまま共感すると言う事がとても大切だと言う事が良くわかりました。共感と同感ではないと言う事、自分はい「それはダメ」とか言っていたので、これからはまずは共感するようにしようと思いました。
- ・子供との関わり方を具体的にお話しして頂いて、勉強になりました。受容と共感し、こどもの話しを聴くようにしたいと思いました。「こどもたちが楽しく」「喜び合い」「笑顔で元気にいられる」居場所になるように頑張りたいとおもいます。
- ・肯定的な言葉で会話出来る様働きかけていく方法がたくさんある事に気付きました。
- ・子どもへの関わり方が具体的に分かった。
- ・子どもとの関わり方で同感ではなく共感すること、まず受容することというのが心に残りました。
- ・相手の状態・状況を察知し、理解し関わる事が大切。自己肯定感を高めていくことが大切（否定しない）
- ・発達障害・特に愛着障害について、色々お話が聞けすぎて参考になり、明日から子供の対応に役立てていきたいと思います。そしていっぱいほめてあげたいと思います。

②情報交換について

- ・私たちのグループは、行政職員、学童保育指導員だったが、指導の現場の大変さを共有することができた。様々なこどもへの対応方法を共有するとともに、指導員の指導方針も市町村により様々なようで、全指導員に今日の研修が必要だと感じた。
- ・違った環境で従事しているので、運営の仕方や、子ども達の様子を聞いて、興味深かったです。
- ・他の事業の方の悩みなどを聞かせてもらって、どこにも大なり小なりいろいろあるのだなあとわかったことだけでも、参考になりました。
- ・違った立場の活動や問題を意見交換できて良かった。
- ・色々な放課後児童クラブの方の意見やそのクラブなどの活動などのお話を聞いて良かったです。
- ・同じような意見があり、それぞれどの様に対応しているのか聞かせて頂く事が出来ました。
- ・イベントの話になり、折り紙教室が思ったより喜んでもらえたと聞き、参考にしたいと思いました。
- ・いろんな対策の方法や経験の中での対応が聞いて勉強になりました。コミュニケーションの大切さ、共感することの大切さを感じました。
- ・色々な市町村の支援員の皆様の経験を聞く事が出来、勉強になりました。
- ・学童や放課後児童クラブの方たちと実際体験したことについて話をし、私が経験したことはまた違うことを聞いたのでよい時間になりました。
- ・各場所によって状況はもちろん運営方法なども違うためそれぞれの所が参考になりました。
- ・情報交換の中で同じ悩みや共感させて頂き、楽しい時間をすごさせて頂きました。
- ・普段聞くことがあまり無い、現場の人々が抱えている悩みや考えを直接知ることができて、とても参考になりました。
- ・子ども同士のトラブルの仲裁の仕方等、悩んでいる事はどこも同じだなと思いました。公営、民営によっても成り立ちが違い、各地域で御苦労されている事もあり、大変さの共有もできました。
- ・他の方との交流は、新鮮な気持ちになり、ポジティブなことばかりの重要性も改めて感じました。相手の立場に立って考える力、のりこえる力、大事ですね。
- ・私のグループでは、学童で指導員をされている方が多く、自身の業務とはかけ離れた現場の実情（子どもの様子や課題）を知ることができました。
- ・私自身が悩んでいることに共感してもらえたり、また解決策などや他の方のやり方などきくことができたからです。

③その他、お気づきの点や今後実施してほしい研修等について

- ・私たちのグループは、行政職員、学童保育指導員だったが、指導の現場の大変さを共有することができた。様々なこどもへの対応方法を共有するとともに、指導員の指導方針も市町村により様々なようで、全指導員に今日の研修が必要だと感じた。
- ・ありがとうございました。子どもの心を感じていける支援員になれたらと思いました。
- ・子どもの絵には色々なことが表現されていますよね。なんとなくわかっているのですが、くわしく知りたいですね。
- ・特性のある児童への対応を勉強したいと思います。